

平成 29 年度 食育推進に係る実践報告書

学校名	江田島市立江田島小学校		
学校長氏名	大松 恭宏	栄養教諭氏名	上浦 佑子
職員数	26名	児童・生徒数	257名

1 学校における食育の現状（昨年度からの課題等）

本校は、「食事と健康について関心を持たせ、実践できる力を育む。」を短期経営目標に掲げて教職員全体で食育に取り組んでいる。食べる力をつけさせるために、給食時間における指導や自分の食事量を考えて給食を完食することができるように取り組んでいる。朝ごはんについては、いつも欠食する児童はいないが、食事内容に課題がある。

2 学校の食育に係る目標（成果指標・目標値）

- ① 自分の食事量を考えて、配られた給食を完食することができる児童の割合を96%以上にする。
- ② よい食事マナーでなかよく、楽しく食事することができる。特に正しく食器類を配置し、食器を持って食べることができる児童の割合を100%に近づける。
- ③ 主食・主菜・副菜が揃った朝ごはんをほぼ毎日食べることができる児童の割合を60%以上にする。

3 食育の目標に対する具体的な取組

【取組1】（テーマ） 自分の食事量を考えた、給食の完食率調査

給食は児童が楽しみにしていることの1つであるが、少食や偏食傾向の児童にとっては不安に感じていることもある。そこで本校では、均一に配られた給食を児童一人一人が自分の食事量を考えて、食事の前に担任の指導のもとで量の加減を行い、給食を完食することで食べる力をつけ、楽しさを実感できるようにしている。

【取組2】（テーマ） 江小まつりでの地域との連携

本校では、校内のクラブや地域の方の昔遊びのブースを設けて、校区の全ての地域の方や保護者と交流を図る「江小まつり」が実施されている。

そこで、保護者が実施する“おやじカフェ”のメニューを検討、考案した。メニューは、江田島らしいものとして、いりこみそや江田島市が食育推進のために取り組んでいるレシピのメニューを提案し、実施した。



【取組3】(テーマ) 主食・主菜・副菜が揃った朝ごはんを食べることの啓発

生活アンケートで朝ごはんの欠食や食事内容(主食・主菜・副菜が揃っているか。)について問い、その結果から「いつも食べない児童」はいないが、食事内容に課題があることがわかる。

- ・収穫した野菜等を使って朝ごはんのおかずを作って食べる取組

学校園で栽培している野菜等を収穫して持ち帰り、朝ごはんのおかずを保護者が作ったり、自分で作ったりして食べることを通して、朝ごはんの食事内容の充実を図る機会を増やす。

- ・保健給食委員会の活動

朝ごはんにおすすめのレシピを児童が考え、試作試食をして、江小まつりで保護者に紹介した。



4 「ひろしま給食100万食プロジェクト」の取組について

「広報えたじま」へのレシピ掲載やスーパーマーケットでレシピを配付して、市民への啓発を行った。給食については今年度の「ひろしま給食」を始め、これまでの料理も積極的に取り入れ、学校給食週間には、「ひろしま給食」の日を設けた。また、地域試食会で「ひろしまいい子いりこ」の実演、試食を行い、おやつレシピを展示して、「ひろしま給食」の取組について紹介した。



5 取組に対する成果と課題

【成果】

- ・取組1については、児童は自分で決めた食事量の給食を残さず食べることができるようになり、その結果、クラス全体の残食量も減少することができた。また、担任も児童一人一人の食事量や偏食の傾向を把握することができている。

完食率(連続5日間を調査)

1回目(7月)	97%	2回目(11月)	98%
---------	-----	----------	-----

- ・取組2については、一つのメニューを保護者と一緒に検討、試作、調理することで、連携をとることができた。また、江田島市が実施している食育の取組や江田島市の郷土料理を知り、食べていただくきっかけにもなった。
- ・取組3については、児童自らが収穫した食材を用いて、朝ごはんのおかずを作って食べる機会を増やすことができた。

【課題】

- ・取組1については、低学年では偏食傾向の児童は担任の声かけ等により少しずつ食べられるようになってきているが、学年が上がるにつれ改善が難しくなっているのが現状である。また、本校は児童の転出入が多く、転入してきた児童の食に対する関心に差があり、特に偏食傾向の改善が難しい。偏食傾向の児童が決まっているため、方策が必要である。
- ・取組3については、家庭での継続が難しい。また、食欲がないことや食べなくても大丈夫、と答える児童もおり、生活リズムや意識の改善を図る取組が必要だと考えられる。

主食・主菜・副菜が揃った朝ごはんを食べているか。	7月	2月	増減
毎日食べている	34.3%	37.9%	3.6%
週に5～6日食べている	15.5%	12.5%	▲3.0%
週に2～4日食べている	24.5%	25.0%	0.5%
ほとんど食べていない	25.7%	24.6%	▲1.1%

6 今後の取組に向けた改善方策について

- ・偏食傾向は、学年が上がるにつれ改善が難しくなってくるので、低学年のうちに担任と連携を図り個別に対応を進めて、好き嫌いなく何でもおいしく食べられる児童を育てていきたい。そのためには、家庭の協力も必要であるので試食会や食育通信等で児童の実態を伝えて改善に取り組んでいく。
- ・朝ごはんの食事内容の充実については、保護者の協力が不可欠である。これからも試食会や料理教室、食育通信での啓発に努めるとともに、生活リズムとの関連が深いことから養護教諭と連携を図り取組を進めていきたい。